

平成29年3月 データから見た業界の動き

■ 概 況

平成29年3月の山梨県内の全業種のDI値は、前年同月比では売上高で16ポイント、収益状況6ポイント、景況感が20ポイントと全ての項目で改善した。前月比で比較しても売上高20ポイント、収益状況、景況感ともに16ポイントと大幅に改善している。

自動車部品関連や半導体関連の生産・輸出は好調に推移している一方で、短納期化と多品種少量化が進んでいる。また、人手不足や原油価格の上昇、原材料の値上がり等がコスト増となり収益確保には至っていない状況で、全面的に経営状況が好転しているとは言えない。

訪日旅行者によるインバウンド消費の縮小により観光関連業種の景気は悪化傾向にある。新入学や就職のシーズンを迎えるという季節要因により家電販売等の小売業や美容院等の個人消費の増加が追い風となった。

建設業では、公共工事の減少に伴い仕事量を確保できていない企業は先行きに対して危機感を抱いている。

新年度を控え、経営者の高齢化、製造業や建設業等の分野に精通した知識労働者、専門職の不足だけでなく、サービス業においても人手不足が深刻化している。大企業でも採用活動を積極的に行うなか、地域経済を支える中小企業の人材確保がより難しくなるとともに、原材料等の値上がりや原油価格上昇によるガソリン・軽油等、燃料価格の高まり、賃金上昇等、企業のコスト負担が収益の圧迫要因になることから、より効果的な支援施策が求められている。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	これまで好調だったホテル・レストラン、居酒屋向けの生食材が不調のうえギフト関係も低調となり、全体の売上は前年同月比79%と前年を大きく下回った。
食料品（洋菓子製造）	量販店、専門店向けの自社製品は前年並みだったが、OEMの焼き菓子や冷凍ケーキが好調により、全体の売上は前年同月比106%。
食料品（菓子）	3月の売上は前年同月比5%増加。雇用人員は減少傾向にあり、雇用したいが、求人が集まらないのが現状である。
繊維・同製品（アパレル）	業況は前年に比べ持ち直しの気運があるが、前年を上回るほどの状況ではない。
木材・木製品製造	外材、内地材とも多少値上がり傾向であるが、売価に反映されないため利幅確保に苦戦している。
窯業・土石（砂利）	公共工事の前倒しの影響により甲府地区は繁忙期であったが、需要は伸長しなかった。
窯業・土石（山採石）	例年、年度末にかけ公共工事の集中により需要が見込まれたが、平成28年度は年度当初から前年を下回る出荷状況が続いている。

一般機器	電子部品や半導体設備は輸出が上昇傾向にあるが、原油価格や鉄鋼等の高騰により収益の悪化が懸念される。依然とし中小企業は、足踏みが続く傾向にある。
電気機器①	業況は、官公庁関係の仕事が一段落して次年度の発注待ちの状態。民間関係は、大手既製品メーカーの大量生産品が主流でオーダー品が少ない状況にある。
電気機器②	半導体関連や自動車関連等は、年度末と世界的な需要の高まりから注文が増加しているが、短納期化と多品種少量化が進んでいる。

● 非製造業

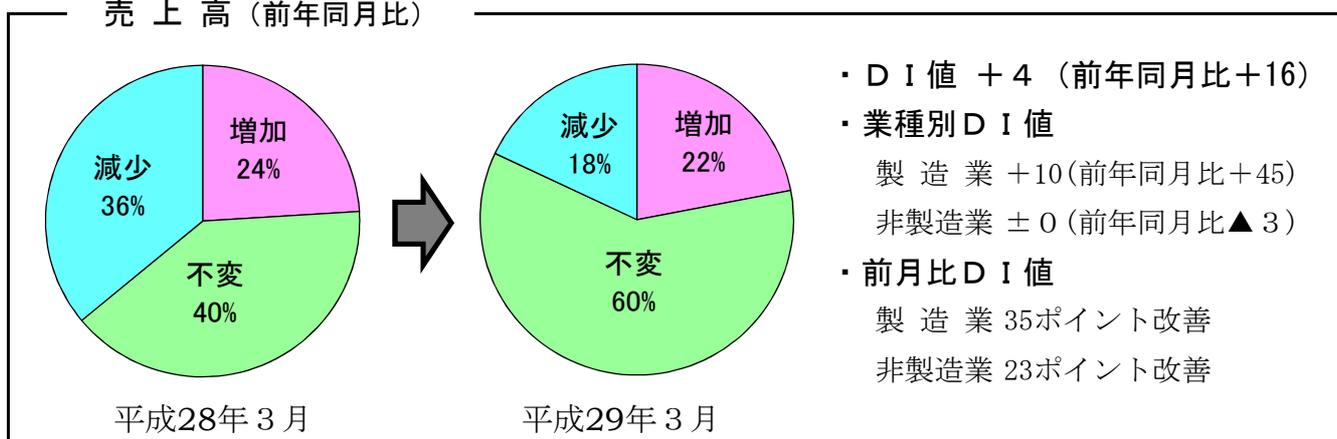
小売（青果）	平成28年度の代払い事業における売上は、前年度対比8%増加。しかし、地元野菜の入荷量が減少しており、県外産の入荷量が増加傾向にある。
小売（食肉）	ブラジルで鶏肉の偽造事件があった影響により、国産の鶏肉相場が上昇。比較的安価な商材として給食や加工品に使われていたため、今後、収益状況への影響が懸念される。
小売（電機製品）	大学入学や就職、異動等により白物家電が好調だが、太陽光関係は低迷が続いている。
小売（石油）	卸売価格の上昇により小売価格も上昇傾向にある。慢性的な人手不足により各ガソリンスタンド責任者の負担が増大している。
宿泊業	各ホテルとも少ない人数でシフトを組んでいるため、急病等の予定外の休みが発生すると対応が困難となるなど、人手不足が一層深刻化している。
美容業	卒業式や入学式、人事異動等により週末は繁忙となった。また、顧客ニーズもカットやカラー等からフェイスエステや、ネイル、メイクアップ等の依頼が増えてきた。
廃棄物処理（事業系）	リサイクル等の再生処理政策は財政事情や住民合意等の点から多くの市町村が対応に苦慮しており、一般廃棄物として排出される量が増加傾向にある。
警備業	在籍警備員数以上の受注があり組合員企業の売上は前年比を上回った。しかし、新年度の工事発注までは仕事量は減少する見込み。また、警備員の高齢化や他業種への転職等により警備員不足が深刻化しているため、閑散期に対策を講じたい。
建設業（総合）	3月の県内公共工事動向は、前年同月に比べ件数は7%、請負金額は12%と共に減少。3月までの累計では、件数、請負金額ともに2%増加している。
建設業（住宅関連）	ZEH（ゼロ・エネルギー・ハウス）対応が急務となっている。
建設業（鉄構）	県内の物件が少ないため、首都圏に依存する傾向が続いている。
設備工事（電気工事）	例年に比べ仕事量が減少傾向にある。
設備工事（管設備）	仕事量の増加に伴い売上は増加となったが、経営者、配管工等の職人の高齢化が一層深刻化している。
運輸（タクシー）	売上は、前年同月比15%減少。乗務員の減少や高齢化等により夜間、早朝乗務等の稼働率が低下した。
運輸（バス）	インバウンド客が減少したため、売上は前年同月比10%減少。
運輸（トラック）	ドライバー不足が深刻化している中で、準中型免許制度が新たに導入されたが効果、影響は未知数である。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

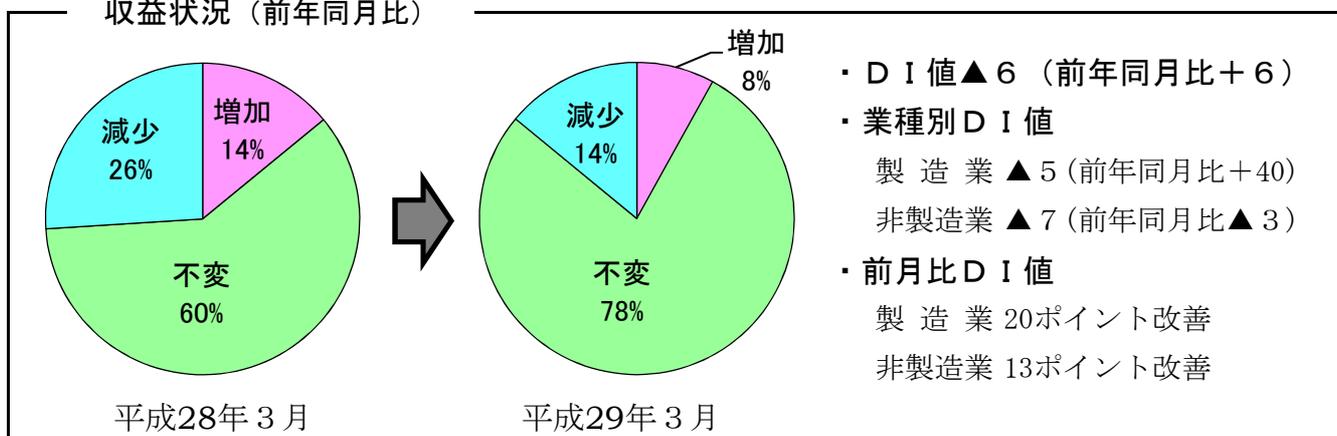
対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2016/3	2017/2	2017/3	2016/3	2017/2	2017/3	2016/3	2017/2	2017/3
売 上 高	-35	-25	10	3	-23	0	-12	-24	4
収 益 状 況	-45	-25	-5	10	-20	-7	-12	-22	-6
景 況 感	-40	-20	0	-10	-17	-3	-22	-18	-2

※（（良数値÷対象数）×100）－（（悪数値÷対象数）×100）＝D.I値

売上高（前年同月比）



収益状況（前年同月比）



景況感（前年同月比）

